

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	日本不耕起栽培普及会		
代表者	岩澤 信夫	担当者	武原 夏子
所在地	〒124-0003 東京都 狛江市 和泉本町 1-36-1-1112 TEL: 03-3430-2304 FAX: 03-3430-9366 E-mail: take_nats@ybb.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	設立の経緯/沿革 岩澤信夫は昭和7年農家の長男として生まれ親の後を継ぎ農業をしていたが、農産物の指導にも全国を廻っていた。1980年東北大冷害に遭遇し冷害に強い稲作を求めて研究を始め1982年ごろ自然農法の本で不耕起という言葉を知りオーストラリアのドライファームや福岡さんの農法を見学するなど不耕起の稲作に将来性を信じ研究を続け遂に稲の野生化に成功し1985年日本不耕起栽培普及会を設立し全国の実践農家を指導してきました。		
団体の目的 ／事業概要	団体の目的/事業概要 1、冷水害・病虫害に負けない稲作の普及 2、絶滅危惧種や生物の多様性を護る水田の普及 3、地球温暖化の要因、メタンガスの排出を激減させる。 4、真菌の排泄するグロマリリンが土壌を団粒化させ水や養分を保留しミミズも共生して冠水しても流失せず農業には有効性が高い事の普及活動 5、間速濾過浄水場と同じ構造を持つ不耕起水田は、藁から藻類のサヤミドロが発生し、緩速濾過により0157や遊戯病原菌なども全て浄化する事を普及 概要 全国から希望者を募集し、自然耕塾を開催し農薬や化学肥料を使わない不耕起栽培を指導しているが、毎年各地で天候異変が起こるため、季節には全国から指導の電話が殺到し対処に忙殺されている。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	活動・事業実績 1、1994年に宮城県の蕪栗沼とその周辺水田に不耕起栽培と冬期湛水を指導していたところ、渡り鳥が舞い降りて、今では雁が4万羽以上と白鳥も多数来てラムサール条約に登録されるなど、地元では観光バスまで出て大賑わいとなり大変に感謝されています。 2、約10年ほど前から琵琶湖周辺の農家の依頼で指導を始め、今では周辺の多くの地域に広がり始めていますが、琵琶湖は広いので全体から見ればまだまだでもっともっと拡大してゆく必要があるのです。 3、その3年後位のときに、佐渡島のトキセンターの在る新穂村の村長さんの依頼で7件の農家に指導したところ、大成功で今では可也広範囲になり、今年トキを放せるようなので、指導者としてはとても嬉しいです。 冬期淡水と不耕起栽培の組合せは、水質浄化能力が高いので印旛沼・八郎潟・霞ヶ浦等の各所に頼まれて講演したり指導したりした他、自然耕塾の卒業生は既に数百人に及び、全国各地で活躍を始めております。秋刈入れの後野水田に米糠を撒き湛水し、春に田植えをして3年を繰り返すと糸ミミズの排泄物が4-5cmも積り、肥料も不要で雑草の種もその中に埋没して草が生えないのです。大発見 www.tanbohakase.com www.geoctites.jp/fukoukisaibai/		
ホームページ			
設立年月	年 月	*認証年月日(法人団体のみ) 年 月 日	
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H17)	円
組 織	スタッフ/職員数 名 (内 専従 名) 個人会員 名 : 法人会員 名 : その他会員(賛助会員等) 名		

政策のテーマ。

地球の温暖化削減を水田から実施しよう。

■政策の分野 1、地球温暖化の防止 2、循環型社会の構築 3、自然環境の保全 4、空気・水・土の保全 5、異常気象と環境への対応

・
・

■政策の手段 1、冬期湛水は年間通水が条件
■ 2、冬期湛水と不耕起栽培の組合せで無農薬
■ 3、稲の野生化で冷水害・病虫害に耐性出現
■ 4、藻類の出現で水棲動植物の連鎖の天国
■ 5、メタンガス排出は慣行田の1/3分の1

団体名：日本不耕起栽培普及会

担当者名：岩澤 信夫

■キーワード	冬期湛水	無農薬	野生化	光合成	温暖化削減
--------	------	-----	-----	-----	-------

① 政策の目的 1、地球の温暖化削減に寄与 2、安全・安心の主食生産により心身の健康を取戻す。 3、田畑の不耕起栽培によるグロマリン効果により、田も畑もミミズ等が年々土壌の肥沃化を齎します。 4、藻類のサヤミドロの光合成で水棲動植物が活性化生物天国。 5、日本の全水田を冬期湛水と不耕起の組合せにすると、何も使わずに米作りが可能です。

② 背景および現状の問題点 現在冬期湛水と不耕起栽培を実施するには、突き井戸などで自家揚水装置を設置しなければ水が確保出来ず多くの農家が苦勞してるが通水できれば解決です農薬の使用制限を強化し1部を除いて禁止。キューバを始め各国で無農薬の栽培が取り入れられ始めている。数年の猶予で禁止にすれば飛躍的に進歩しているので、間違いなく無農薬の田畑に戻れます。近い将来資源枯渇の時代には無農薬しか出来ません。現代の病弱体質も疾病なども、化学薬品と添加物などの影響も考えられます。早く廃止に踏み切るべきです。

③ 政策の概要 長期的な視野で考えますと、学校給食を発芽玄米の少し入った無農薬の米飯に変えれば、心身の変化は目を見張るものになるでしょう。パンは輸入のポストハーベストの小麦です。それに又添加物を幾つも加えて作るので、健康に良くないのは明らかです。次世代の子供のためにも体内に堆積する化学物質を使用しない給食にするのが必要です。もう直ぐ来る水飢饉からの食糧難は、輸入品に劇的な変化を齎します。多くの科学者が警告を出しているのに日本の行政は関心を示しません、いつも被害者は弱者の女性と年寄りと子供です。その時に味蕾に玄米の味を判らせて置けば、玄米を食べることが出来るのです。今の子供たちには、将来の命の手綱が変わるのです。発芽玄米が必要な所以なのです。調べてみましたら幾つもの事例もありました。保育園から小学校中学校などです。小児科の医者達も体質強化のための食育の研究から給食に問題ありとして、我々にも呼び掛けて来られました。九十九里の野栄中学や長野県の真田中学では、発芽玄米入りの給食を採用したことで、それまで荒れ校で有名な学窓が数年で県下でも指折りの進学校となり、周辺の民宿や生徒の家でも発芽玄米入りご飯が健康と美容の面から多くの人々に受け入れられたそうです戦前まで殆ど存在しなかった化学物質が、農薬や化学肥料や化学薬品になり、私達の体の隅々まで浸透して目には見えませんが確実に堆積しています。女性が赤ちゃんを産むと赤ちゃんに堆積していた堆積物が移転して母親は体が楽になり赤ちゃんはアレルギーを受け継ぎます。また環境ホルモンなども何処にでも溢れて相乗効果を発揮しているのです。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

1、日本の将来を考えると無農薬栽培を推進して下さい。輸入飼料で飼育する家畜の糞尿が入る有機栽培は極めて変異性が高く危険なので禁止すべきです。真菌から排出されるグロマリンなどの団粒か効果などを全国的に告知して、世界中から情報を収集して各地で公開実験させれば一挙に市民の意識も安全と健康に向かうでしょう。キューバの無農薬は手本になります。

2、水利権の開放が要件です。山間僻地の零細農家を元気にするには、子供たちが故郷に戻り家業に専念出来る事が肝要です。年間通水させ不耕起栽培で湛水し無農薬米を作らせ地域の学校給食に発芽玄米入りで採用させれば、地域も活性化するし、子供たちも体質強化となるので一石二鳥三鳥で畑も無農薬栽培なら、少し割高でも皆喜んで買うのです。地域振興には道の駅のような設備を公設し、民間に安く運営させれば農家は無農薬の品を直売出来るのです。

3、ヘリコプターによる農薬散布を、期限を設けて禁止にして下さい。校庭を始め街路樹でも家庭の庭木も被害が出ていますが、行政が率先しているので被害者は殆ど泣き寝入りです。農家に聞いてみましたら、これに変わる何かが有れば、早く止めたいのが本音だそうです。

アメリカでは1996年に農務省のサラ・ライト博士が真菌の排出するグロマリンという粘性の強い物質を発見し、畑を不耕起にするとミミズが年々増大し3年で肥料が3割も少なくて済む上に、冠水してもグロマリンが土壌を団粒状にして植物の根も絡み流失しないのが判明したので世界中に推進して、今では日本中の全耕地の13倍に当たる6000万ヘクタールが不耕起栽培の畑に切替えられているそうです。（日本生態系協会の資料より転用）

また2-3年前の記録ですが、アメリカの農家の40%以上が既に不耕起栽培に切替えていて日本に輸出している大豆やトウモロコシも薬研のようなディスクを、トラクターに取り付けV字型に切込を付けて固い大地に一粒ずつ種を落し込んで栽培しているそうです。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

日本不耕起栽培普及会は自然耕塾を毎年開催して既に多くの同志を育成し指導に関しては実績を積重ねて参りました。このシステムを全国に広めるためには、多くの費用が掛かりますので、どのようにしたら効率良く学習させることが出来るのか？を多くの識者の方々と話し合いを通じて情報を収集し早くこのシステムを朗報として全国にPRして行きたいのです。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- 1、地球の温暖化の阻止は喫緊の問題ですが、この不耕起栽培を全国的に出来れば推定ですがCO2換算で年5-7千万トンの削減が可能という試算が出ています。アジアの環境リーダーとして水田地帯の多い周辺諸国に不耕起栽培を推進して温暖化を削減させることは、温暖化の危機を迎える世界の中で日本の立場を再認識させることになるでしょう。
- 2、声高に食養が叫ばれて居りますが、まず殺虫剤・除草剤・抗菌剤等の三種混合という高濃度の水稻撒布廃止が可能になります。3年過ぎると雑草が生えなくなり、稲の野生化で生物が溢れ、冷水害にも病虫害にも冒され難くなるので、農薬は不要になるのです。
- 3、主食が無農薬を実現すれば、ポストハーベストの小麦パンは、発芽玄米を2割ほど入れた給食に代えます。他の食材も不耕起の畑で地産地消となりますから、食養を自然に取り入れられます。発芽玄米の少し入った給食は心技体も強化され数年で見違えるようになります。
- 4、化学物質原料の農薬は田舎對外にも町中の街路樹や庭木や屋敷林まで被害が拡大し多くの不登校児も生み出しております。大幅に使用制限を設け世界中に業者を求めれば、日進月歩で拡大されているのです。キューバを始め多数の国からの情報も豊富です。
- 4、里地里山の絶滅危惧種を救い、山間僻地を開発振興し自給自足として地域の特産物を育成して、この何も無くても米作りが出来るエコロジーでエコノミーなシステムを取上げて戴きたいのです。どうぞ宜しくお願い致します。

⑦ その他・特記事項

